

令和7年度アンケート（抜粋）

1 今回の研修は有益でしたか。

- 広島原爆により数多の民間人たちが犠牲になったこと、そして彼らの痛みを肌で感じることができた。
- 広島原爆により被った惨状、その克服のための体系的かつ弛まない努力について、より詳しく知ることができました。
- 学びが多く、特定のリスクや被曝で支援が必要な人々へのケアのあり方についての理解と意識が高まりました。
- 臨床や研究の専門家から原爆の影響について直接お話を聞くことができ、大変貴重で意義深い経験でした。また、被曝者支援のための行政の取り組みについても学ぶことができ、とても参考になりました。
- 国際的にも大きな関心を受けている被曝者たちについて、今回の機会を通じて詳細で多様な方面から理解を高めることができ、大変有益でした。のみならず、広島という都市自体について肯定的な好感を抱くことができ、感謝の気持ちが大きいです。
- 原爆被害について、普段深く考えたことがなかったが、今回の機会の詳細に知ることができた。二度とこうした痛ましいことが起きないように、過去の経験を顧みて政治家たちも覚醒し、全国民がより努力すべきと思った。
- 講義の構成やスケジュールはよく整理されていました。講師や関係する専門分野の皆様はとても親切で、私たちの理解を常に気にかけてくださいました。ブラジルでは、放射線やその健康への影響について十分な情報を得る機会があまりありませんでしたが、本研修はその不足を補ううえで非常に重要なものでした。

2. この研修で得た知識、または技術を実際にどのように利用するつもりか説明してください。

- 被曝患者に直接会うことがあれば、今回の研修で得た間接的な知識を医療状況にリンクさせて伺ってみます。医師や学生たちの講義に際し、参考にします。
- 放射線の教育や広報の参考にします。
- 当方の機関で研修や施設ツアーを行う際、日本での経験を伝えながら放射線安全文化を拡散していく考えです。
- いつか論文を書くときに活用できるかと思います。
- PTSD患者たちは、思い出したくもないほど大きな傷を抱えているに違いない。彼らを看護するに当たり、しっかりした情緒的な支えが伴わなければならないかと。あらゆる人は何の理由も必要なく大切であるということを、最も根本的な心構えとして心に刻み、業務に臨みたい。
- 災害時、また災害の後での対応の研究、訓練、またできるだけ被害を少なくするための対策など、勉強になりました。ブラジルに災害が起こるリスクは少ないのですが、これから予防対策のことも考えるようになりました。

3. HICAREの事業をより改善するために、今回の研修に関するあなたのご意見をお聞かせください。カリキュラムや期間、その他について。

- 放射線医学以外に病院システムなどを見学できる機会があれば良いです。
- 三週間といっても長いようで短い、貴重な期間でした。期待通りたくさん色々な事を学べる素晴らしい経験です。
- 平和記念資料館でボランティアガイドを活用した高校生たちのグループ授業を、活用できればいいと思った。「広島のおばあちゃん」韓国語版があれば、より多くの人たちへの広報になるように思う。

4. 広島での滞在について

(1) 広島での生活にどのような印象を持たれたか教えてください。

- 過去の痛みにより、人々が平和及び戦争について高い関心を寄せているのが印象深く、再び新しい生を掘り起こした姿がすごいと思った。
- 広島は活気があり、にぎやかな街です。
- 短い期間でしたが、きれいで静かで清潔な日本の生活を垣間見ました。静かだけど深い響きのある街だと思いました。忘れ得ない貴重な思い出として残りそうです。

(2) 広島での滞在中、日常生活で不便を感じたことがあれば教えてください。

- 天候が暑く、外での移動は比較的しんどかったように思います。
- ホテルの部屋は少し狭かったですが、日本では一般的だと理解しています。朝食付きなのはとても良かったです。

5. 研修を終えて感じたこと

- 研修者は少数だったにもかかわらず、熱心に講義して下さった講師の先生方に感謝申し上げます。
- この研修の機会をいただき本当にありがとうございました。大変貴重な経験であり、原爆や被爆者をめぐる課題への理解と意識が確実に高まりました。